

感染制御・感染看護演習

責任者・コーディネーター	看護専門基礎講座 一ノ渡 学 講師		
担当講座・学科(分野)	看護専門基礎講座、微生物学講座分子微生物学分野		
対象学年	3・4	区分・時間数	演習 12時間
期 間	後期		
単 位 数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

感染症の制御を理解することは、看護師にとって非常に重要である。感染制御・感染看護演習では、1年次に学修した感染免疫学を基に病院内にて検出される微生物の人体に及ぼす影響の特性を理解し、微生物の取り扱いについて学ぶ。また、感染防止策としてのPPEの取り扱いについて修得する。

・教育成果（アウトカム）

病院内における微生物の特徴的な症状を学修することで、感染症について体系的に理解することができる。また、感染防止策としてPPEの取り扱いについて学修することで臨床判断能力の基礎を理解することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：3, 4

・到達目標（SBO）

1. 看護師として感染制御に関わる役割について理解できる。
2. 手指衛生について理解し消毒法について理解できる。
3. 手指衛生の効果について保菌細菌の状況を把握することで理解できる。
4. 消毒効果について統計的に評価することで理解できる。
5. 感染防止策としてのPPEの役割について理解できる。
6. 感染性廃棄物の取り扱いについて理解できる。

・授業日程

(矢) 西 3-C 実習室

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
8/8	月	3	看護専門基礎講座 分子微生物学分野 分子微生物学分野	一ノ渡 学 講師 下山 佑 准教授 石河 太知 講師	消毒法による手指衛生の効果① ・手指衛生の方法を正しく理解し実施できる ・微量液体採取の方法を理解し実施できる ・好気培養法を理解し実施できる
8/8	月	4	看護専門基礎講座 分子微生物学分野 分子微生物学分野	一ノ渡 学 講師 下山 佑 准教授 石河 太知 講師	消毒法による手指衛生の効果② ・濾過滅菌の方法を理解しメンブレンフィルターの取り扱いについて理解できる ・好気培養法を理解し実施できる
8/9	火	3	看護専門基礎講座 分子微生物学分野 分子微生物学分野	一ノ渡 学 講師 下山 佑 准教授 石河 太知 講師	消毒法による手指衛生の効果③ ・培地に発育した細菌について、その発育の様子から違いを観察できる
8/9	火	4	看護専門基礎講座 分子微生物学分野 分子微生物学分野	一ノ渡 学 講師 下山 佑 准教授 石河 太知 講師	消毒法による手指衛生の効果④ ・培養条件の異なる検体を用いて、病原体の増殖の違いを観察できる
8/10	水	3	看護専門基礎講座 分子微生物学分野 分子微生物学分野	一ノ渡 学 講師 下山 佑 准教授 石河 太知 講師	消毒法による手指衛生の効果⑤ ・培養した検体の発育の違いから検出された細菌の状態と手指消毒法との関連について観察できる
8/10	水	4	看護専門基礎講座 分子微生物学分野 分子微生物学分野	一ノ渡 学 講師 下山 佑 准教授 石河 太知 講師	消毒法による手指衛生の効果⑥ ・発育した細菌の様子から消毒効果について統計学的に考察することができる ・感染性廃棄物について理解して廃棄することができる
8/12	金	3	看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師	感染防止策としての PPE 着脱演習① ・感染防止としての個人保護具の重要性について理解できる

8/12	金	4	看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師	感染防止策としての PPE 着脱演習② ・ 個人保護具を正しく装着および取り外しができる
------	---	---	----------	----------	---

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	わかる！身につく！病原体・感染・免疫 第3版	藤本秀士 編著、他著	南山堂	2017
参	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版	森尾友宏、他監修	メディックメディア	2018

・成績評価方法

演習内容を踏まえた課題レポート 100%により評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

- ・ シラバスに記載されている次回の授業内容及び到達目標を確認し、1年次に学修した感染免疫学の教科書・レジメ等を用いて事前学修（予習または復習）を行うこと。最低 30 分を要する。
- ・ すでに学修した感染免疫学を基本としているので、ディスカッションに対応できる事前学修を行うこと。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

本講義の事前・事後学修については、WebClass を活用して適宜対応する。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影